

深夜電力を利用した氷蓄熱式空調機の採用による光熱費の縮減 【大阪大学】

- 石橋団地の契約電力の抑制と電力料金縮減のため、深夜電力利用の氷蓄熱式空調機を採用
- 平成9年度より順次団地内に導入し、平成16年度までに新営8棟（延63,860㎡）、改修2棟（理学部、基礎工 期で延27,090㎡）で採用。
- 平成16年度は、一般的な電気式空調機と比較して電力料金を約730万円縮減

● 石橋団地（建物保有面積23万4千㎡）は、使用するエネルギーのほとんどが電力であり、電力需要の増加による光熱費増加へ対応するため、電力のより効率的な運用が求められた。このため、契約電力と使用料金の低減が可能な深夜電力を利用した氷蓄熱方式の空調設備を導入することとした。

● 氷蓄熱式空調機は、夜間使用が少なくなる講義室、文系の研究棟、教員室、事務室等へ採用。

● 平成16年度は、深夜電力利用による日中の最大電力の低減(約250kW)と料金単価の差額により、電力料金を約730万円縮減。

石橋団地氷蓄熱空調機導入実績

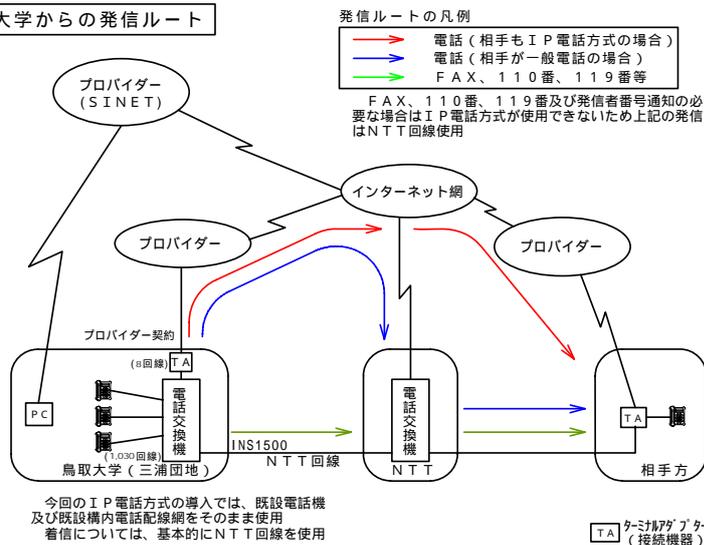
番号	建物名称	延床面積 (㎡)	実施年	改修/新営	設備容量 (kW)
1	共通教育校舎	6,820	H9	新営	93
2	国際公共政策棟	3,710	H10	新営	98
3	基礎工学部J棟	6,380	H12	新営	64
4	附属図書館本館	15,520	H12	新営	24
5	化学・高分子科学棟	7,480	H12	新営	132
6	文法総合研究棟	6,810	H12	新営	242
7	基礎工学部 改修 期	5,000	H13	改修	31
8	サイバーメディアセンター	7,210	H14	新営	140
9	理学部本館改修 期	7,750	H15	改修	95
10	基礎工学部本館改修 期	4,500	H15	改修	30
11	石橋総合研究棟	9,930	H16	新営	141
12	基礎工学部 改修 期	9,840	H16	改修	27
合 計					1,117

電話システムの見直しによる通信経費の縮減 【鳥取大学】

- 電話料金削減のため、鳥取地区の電話システムに発信のみのIP電話を採用
- IP電話導入後11ヶ月間で前年比約230万円のコスト縮減を達成
- 米子地区も17年度に導入予定（コスト縮減見込額 約400万円）

I P 電話方式の導入についての概念図

大学からの発信ルート



I P 電話方式導入後の電話料金比較（三浦団地）

(単位:千円)

	H15.5	H16.5	導入効果
	H16.3計	H17.3計	
市内 (NTT)	3,359	1,356	-2,004
市外 (日本テレコム)	2,728	515	-2,213
国際 (日本テレコム)	674	357	-317
その他 (電報等)	108	189	81
基本料金 (IP電話)	0	240	240
IP電話通信料	0	1,954	1,954
合計	6,869	4,610	-2,259

11ヶ月で約230万円を縮減